

令和元年度第1回十日町市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和元年6月7日(金) 午後1時30分～午後2時30分

2. 会 場 十日町市役所 車庫棟2階大会議室

3. 出席者 市長 関口 芳史
教育長 蔵品 泰治
教育委員 吉楽 隆一
教育委員 庭野 三省
教育委員 佐藤 美佐子
教育委員 浅田 公子

説明のために出席した者

子育て教育部長	樋口 幸宏	健康づくり推進課長	高津 容子
農林課長	小林 充	教育総務課長	長谷川 芳子
学校教育課長	山本 平生	指導管理主事	佐藤 研一郎
教育総務課長補佐	市川 伸	学校教育課学事係長	高澤 剛

事務局

総務部長	渡辺 正範	企画政策課長	渡辺 正彦
企画政策係長	相崎 文幸	企画政策係主査	酒井 潤

4. 議 題 (1) 十日町市の食育・学校給食について
(2) 十日町市の学区の再編について
(3) その他

【会議資料】 資料1-1 第3次十日町市食育推進計画について
資料1-2 学校における食育の推進について
資料1-3 学校給食地産地消推進事業について
資料2 第2次十日町市立小・中学校の学区適正化に関する方針について

渡辺総務部長（開会）

関口市長（あいさつ）

皆様、ご多用のところ、令和元年度第1回総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

平成27年度に策定いたしました教育大綱及び総合計画におきまして、基本方針の一つであります「ふるさとを愛し自立して社会で生きる子どもを育てるまち」を掲げて、学校教育環境の充実や特色ある教育活動の展開を目指しているところでございます。

本日の議題の一つとして、「食育・学校給食について」を取り上げさせていただきました。総合計画では、学校給食における地元農産物の使用割合を目標値に掲げておりまして、さらに、十日町市教育大綱でも自然や人に感謝する心を育てるなど、心と身体を育む食育を推進しているところでございます。

また、十日町市におきましては、今年3月に今年度から令和5年度までを計画期間といたしました、第3次十日町市食育推進計画を策定してございまして、食を通じて、健全な心と身体をつくり、豊かな人間性を育む、さらに、人と人のつながりを大切にし、家庭や地域の輪を広げることを目的に、取り組みを進めているところでございます。

教育委員の皆様からは、地元食材を使用した学校給食による食育の推進などの取り組みにつきまして、ご意見を賜りたいと思っております。

もう一つの議題ですけれども、「学区の再編について」とさせていただいております。こちらは事前に教育委員の皆様にご意見を承ったところ、最も多かった議題であったと伺っております。

この度、今年度から令和10年度までを計画期間といたします、第2次十日町市立小・中学校の学区適正化に関する方針が教育委員会において決定されたわけでありまして。このことは十日町市学区適正化検討委員会の皆様からの答申、そしてパブリックコメントによる市民の皆様からのご意見、そうしたものを踏まえ、方針が決定されたものと理解しております。学区適正化の方針の実現に向けて、教育委員の皆様からご意見をいただきたいと思っております。

地元食材を使用した学校給食による食育の推進など、まさに十日町市の良さを生かした特色ある教育活動の推進や、学校規模の適正化の推進などにより、ふるさとを愛する子どもたちを増やしていくこと、また、次代を担う人材を育てていくことが、私たちの究極の目標であります「選ばれて 住み継がれるまち とおかまち」の実現に直結するものと考えております。

この会議を通じ教育委員の皆様には、今後も引き続き、教育行政の充実にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。開会のごあいさつとさせていただきます。限られた時間ではありますが、有意義なものにしてまいりましょう。よろしく願いいたします。

渡辺総務部長

ありがとうございました。本会議でございますが、市長が「総合教育会議」を招集することとされておりますことから、以降の進行につきましては、市長からお願いしたいと思いません。

関口市長

それでは、よろしく願いいたします。お手元の次第に沿って進めさせていただきます。議題（１）「十日町市の食育・学校給食について」ですが、資料が用意されておりますので、事務局から説明をお願いします。

（議題（１）「十日町市の食育・学校給食について」の資料１－１を高津健康づくり推進課長が、資料１－２については、山本学校教育課長が、資料１－３については、小林農林課長がそれぞれ説明を行う。（省略）

関口市長

それでは説明が終わりましたので、教育委員の皆様からご意見・感想等を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

吉楽委員

食育推進計画については、令和元年から令和５年度までを見据えた中で、どのように推進を図っていくかというのが大きなテーマと思っています。振り返ると学校教育では「食育」の前が当時「肥満対策」ということで、都会も地方もなく肥満児の子が多い時代があり、その後、むし歯になる子が多いとか、こういった食生活全般が過去にあったわけですが、現在は「孤食」傾向で家族の中での生活が別々になると正しい食事環境が整わないということがあり、学校教育における給食時間を有効に活用して食育といえますか、将来にわたっての体づくりといえますか、必要な活動と思っています。

私のほうでは今後５年間の計画で考えていただきたいのは、地産地消と、実際に食材として必要とされるものとのミスマッチがないようにしてもらいたい。先ほど農林課の方の説明もありましたとおり、生産者のみなさんが、そこに向けて取り組みやすいような環境づくりも合わせて検討いただければと思います。さらにトレーサビリティということで、どんな野菜でもいいということではなく、安全・安心のきちんとした担保が図れるような農薬使用等についても配慮いただいたものを使っていただければと思っております。

関口市長

今ほどの話で孤食対応ですね。学校給食の重要性が年々高まっているといっても過言ではない。そういった気概をもって充実させないといけないと私もまさに同感でございます。

した。

庭野委員

12 ページのとおかまちメニューについて、是非大いにやっていただきたい。テーマの人物について情報を各学校に流さないと先生方が知らない。先生方が知らなければ指導もできない。

例えば、6月メニューの「レスリング競技者・桜花道場」ですが、吉田沙保里選手や伊調馨選手が十日町の食事が美味しいと言います。お世辞かと聞くと、本当に美味しいと言います。十日町の美味しい食事で厳しい練習を乗り越え、今、オリンピックで頑張っている。そういった成果が出ている等、子どもたちに分かるように情報をうまく流してほしい。

佐藤委員

先日も東小学校へ伺って子どもたちの給食をいただく時間があつたのですが、子どもたちは本当においしそうに、2年生でしたがとてもマナーが良く、昔のようにスプーンではなく、お箸を使っていただくので、案外、食事のマナーもできているのかなと感心しました。段取りも良く、準備も片付けも先生が言わなくても子どもたちが行動していました。

ただ、残食ということで子どもたちの胃の大きさ、お腹の大きさを無理なものは無理というような感じがあつて、本当に一生懸命食べている様子がいじらしくて、その辺どうしたものかなという感じがしました。

1つお聞きしたいのは、給食費のことですが、今、1人で食事をしなければいけない子どもさんが多くなって、子ども食堂が全国でも言われています。ボランティアが地域から食材をもらって無料で1人ぼつちで、ご飯を食べなければいけないお子さんに食事を提供しているような活動をされているところもあるようですが、この十日町市でも給食費に対して補助があるようですが、この先、どのようなことを考えられているのかをお尋ねします。

関口市長

子ども食堂という取り組みをしていただいている皆さんには、本当にありがたいと思っています。やはり家庭の状況が、先ほど孤食の話もありますけども、随分と変わってきている。また経済面で、なかなか十分な栄養をとれない可能性のあるお子さんもいらっしゃる訳なので、そういう皆さんにはチャレンジしていただいていることに関して非常にありがたいと思っています。

給食に関しては、経済的に厳しい場合は教育委員会の制度があり、13、14%くらいの方ですが給食費も補助、生活保護世帯ももちろんのことですが、それ以外の部分のところもしっかり対応しております。そうしたことは、これからもやっていかなければと思っております。

それ以外の皆さんに関しましては、食べるものでもありますし、基本的、負担いただくの

が筋ではないかなと感じています。その分、学校給食の意義といいますか非常に高まっている訳でありますし、さらに、その機会を捉えて、色んなことを食育ということで情報提供、また生徒の健康管理を含めて、色々な話ができる訳でありますので、そういったところに充実させていって十日町市の学校給食をさらに特色あるものにしたいと思えます。

もう1つ、地産地消率というのが非常に大事だと思っております。資料にもあるように、お米を含まないベースでも2位以下の自治体に10ポイント以上差がついている。お米を含むと地産地消60%以上となっております、高水準だろうと思えます。ただ総合計画の数字が高めに設定しているので、さらに頑張るということだと思うのですが、非常にいいのではないのでしょうか。そういうことで農業者の皆さんがやりがいがあると思えますし、先ほど農林課から、色んな種苗代のご支援もしておりますので、うまく回り出してきて実際に実績も上がり出してきているのかなということもある。教育委員会、また、十日町市全体の取り組みで成果が上がりつつあるのではないかと考えています。給食費の問題は大事な問題ではありますが、大変な状況にある皆さんには、しっかりご支援をして、それ以外の皆さんには、ご負担いただきたいという思いでございます。

浅田委員

私自身、子どもが中学に通ってしまして、年に1回給食試食会があり参加させていただくことがあります。栄養のバランスや地元産の食材を使われて、良く考慮されているなど感じます。減塩という話もありましたが、家の食事よりも味が薄く感じたので家でも気をつけなければいけないと思いました。親戚に他の市町村の中学生のお子さんがいて、その調理師をしている方がいるのですが本当にこれでいいのかなと思う食事内容で、十日町市は恵まれていると感じました。このまま続けていただきたいと思えます。

吉楽委員

庭野委員さんがおっしゃったとおり、今後、積極的な取り組みとなると、この十日町メニューの日というのが個人的な思いですが、例えば沖縄であったり、いろいろな地域との交流事業を十日町市はやっていますので、他のところの地域の交流でメニューみたいなものがあると、他のところの知識も食べながら得られると思うので、ぜひ、そんなことも検討いただければと思います。

教育長

十日町市と交流のあるところとの関わりの給食ということでございましたけども、クロアチアホストタウンという事業でクロアチア共和国の駐日大使のご婦人からお越しいただいて調理を教えていただいたり、実際、学校給食の中に、ご提供させていただいているものもあります。国内でも色んな交流もありますので、お互いに紹介しあいながらメニューの中に反映できればいいなと考えております。

関口市長

それでは時間の関係もございますので、議題（１）「十日町市の食育・学校給食について」は以上とさせていただきます、よろしいでしょうか。

関口市長

次に議題（２）「十日町市の学区の再編について」ですが、こちらも資料が用意されています。事務局は説明をお願いします。

（議題（２）「十日町市の学区の再編について」の資料２を長谷川教育総務課長が説明を行う。（省略））

関口市長

このことを５月３０日に決定し、大方針をお決めいただいたということで、その前に学区適正化検討委員会の皆様から答申をいただいたのを、説明によると５年後という中間的なものがあったのを、あえて１０年後とした訳ですが、いただいたものを教育委員会のほうで大きく骨格の部分を変えたというのは異例だと私は拝見したのですが、そういうようなところを分かれば話していただきたいです。

教育長

この度の方針を決めるにあたっては教育委員会内部でも、いろんな議論がありました。正式な教育委員会という場で話し合ったり、非公式の勉強会と申しますか、その中でも３、４回、会を重ね話し合う中で、やはり、色んな地域で第１目標の５年後ということだと、かなり戸惑いが大きいのではというご意見がありまして、さらに第２目標でありました令和１０年度、そちらのほうに揃えながら取り組んで行こうじゃないかという話になりました。

吉楽委員

先ほど教育長がおっしゃられたとおり５月３０日に、いろんな経緯、議論を踏まえた中で説明いただいた状況になりました。思い起こせば、この十日町市の街づくりというようなことにも繋がっていて、私が教育委員になった当初からの小中一貫教育という柱と同時に、その前後、幼児教育若しくは十日町市には十日町高校はじめ高等学校があるわけですから、こういった地域の教育全体を眺めていく姿勢というのは必要なのだろうなと思っています。その中で少子化という、全国どの市町村でも大きく抱えている課題に対して、現実には保護者の皆さんの心情というものをどうしても１番に優先しなければいけないということで、教育環境をどのように充実するのが１番いいのかということを経験させていきたいです。

た。そういう思いが1番強くありますので、まずは一市民に戻れば、少子化なり、人口減少というものを地域に少しでもプラスに転じるような協力ができればなと思っています。

庭野委員

昨年から教育委員会のたびに、この問題が出て、正直、出席するのが辛くなる時がありました。事務方、適正化検討委員会の方が頑張っていて、これだけのものにまとまったわけですから無理に反対できないという気持ちもありましたけども、パブリックコメントを読んだら、やっぱりこれは地域の思いを尊重しなければならないと、そんなふうを考えています。前回の決では3対2の少数意見の方でした。少数意見の人は、この場で何を言ってもいいか迷うわけです。

地元の人が賛成なら申し分ありません。でも学校を残してほしいという声があったときに教育委員会と行政は、どういう対応をとるべきかというのを真剣に考えていただきたい。もちろん今も考えているのですが、全県的な流れでは、この流れは止まらず地域の方は、「もういいや。」という傾向が多い中、十日町市は違います。パブリックコメントを見て、飛渡第一小学校の保護者の熱い思い。もちろん飛一小も児童が少ないので中条小へ来てる子もいます。でも、ここに込められたパブリックコメントの内容を読むと、正直、賛成をためらう気持ちはあります。

関口市長

しかし教育委員会としては方針が決まったので、今後はブレずにどうやっていくかと、そういう話を先ほど聞いたかったのですが、佐藤委員どうでしょうか。

佐藤委員

つらい地域にあります。けれど、ここの概要3ページ「学区再編にあたっての配慮事項」こちらを本当に市のほうで誠意をもって対応していただきたい。また、地域の皆さんも理解がないわけではないので、本当に子どもたちにとって何がよくて、将来どうあってほしいという、本当に切ないという状況であるのは分かっているのですが、やはり学校が地域からなくなる、子どもの声が聞こえなくなるというのは本当に切ない部分が強いので、それに対して、どこまで誠意をもって対応していただけるのか。

スクールバスから始まるのですが、雪の多い地域なので大きいバスをよこすのではなく、各家々まで迎えのスクールバスが上がって行ってもらえるくらいの、そんな暖かい配慮を持って接していただければ住民の方も安心できます。大雪のとき、災害のとき、川を渡って学校へ行くということが保護者にとっては不安でありますし、橋を渡って帰って来れなかったらどうしようという思いもあると思うので、そういったときの対応とか、様々な状況が起こると思うので本当に不安がいっぱいだという気持ちから、皆さん、色々な思いがぶつかり合っていると思いますので、本当に暖かい気持ちで助けていただければと思っています。

す。

浅田委員

どんな地域にいるお子さんも、どんな経済状況にいるお子さんも平等に教育が受けられるような状況にしたいと思っています。地元の方にとっては学校が心の拠り所だと思うので、皆さんが納得いく形でいい方向に求めればよいと思っています。

関口市長

5月30日の決定に向けての色々な思い等を聞かせていただきました。6月の議会でも、この話が出るのではないかと思います。

教育委員会の皆さんは執行機関であるので、私と同じ立場で行政委員会となります。市長も物事を決めるときには右のことも左のことも考え、総合的に判断して決めたらぶれずに向かうわけでありますが、教育委員会の皆さんも当然ながら、そのお立場ということでもあります。5月30日は3対2という議決があったと聞いておりますが、その上で最終的に議決いただいた以上、誰かが説明しなければいけないが、佐藤委員が説明しないとイケない立場になることもあるわけです。教育委員会として、こういう方針を決定したので市の当局と一緒に懇切丁寧にご理解いただくようなことを、これからやっていかれるものと期待しております。我々もいろんなサポートをし、しっかりやってまいる所存であります。そうしたことは、この総合教育会議で話すべきことと思ったものですから、是非一つ、こちらのお願いであります。そういう方針で出来ればというふうに思います。

これからは10年と長い期間がありますが、その先も見据えてという話で事務局からも説明がありましたが、その第2次学区適正化の計画の先のことを何か考えがあれば聞かせていただいで参考にしたいと思っています。

吉楽委員

基本的に十日町市の保護者、子育てをされている方に起こりつつある現象というのは、学区の範囲を越えた新たな自分が決めた小学校に、中学校に選択する、そのような動き、気持ちを持っていらっしゃる保護者の方々も現実に出てきています。そういう中では先ほど、学区の後というか、学区と平行ですけれども一番大事なのは十日町市の各義務教育課程とはいえ、そこにおかれる小学校や中学校を、どんな特色を将来に託すなり、現実に再編後から目指していくのかというのは、地方の中で魅力を持たせる大きなきっかけになるのではないかと思います。再編というのは少子化の中で縮小するようなイメージを持ってしまっていますが、それをプラスに転じるとなると、できるだけ地域の知恵を持ち寄った特色をどう具体的に教育現場に落とし込むかというのは、先ほどテーマになっています、教員そのものが十日町市出身者が少ないという状況もあるものですから、やはり合わせ技で、そういったことも含めて再編後の姿というのも、もう少し真剣に地域のみなさんも入って話し合いをした

ほうがいいのかと思っています。

庭野委員

私は統廃合そのものは問題視していません。例えば十日町市の中学校を考えると前々から十日町市の中学区は小さすぎると感じていました。将来的には必ず統廃合が必要だと思っています。今回の統廃合は仕方ないと思っています。中学に対してかなりの疑念を持っています。例えば川西側の大地に中学校がなくなるということは、本当に十日町市のアイデンティティーにいいのかということが気になります。地域性を考えてうまくできないのかと考えます。

それと、十日町市の場合は学校の借地料がかなり掛かっています。その問題は抜きにして、この統廃合を決められないと思います。その辺が疑問です。

関口市長

その資料はありますか？借地料の質問がありましたがいかがですか。

樋口子育て教育部長

借地料については、教育委員会の会議資料として提供し、ご審議いただいております。ただ検討委員会の皆様方、保護者の方、地域代表の皆様方でのご審議の中では、子どもを主眼とした検討をしていただきたいこともありまして、お示しをしない形で、ご審議は進めていただいております。

関口市長

今日はその資料はないですか？という質問ですが。

樋口子育て教育部長

今日はそのまでのところの広がりについては予想しておりませんでしたので、資料は用意していませんでした。

関口市長

資料はないけど説明できればしていただけますか。

樋口子育て教育部長

十日町市では小学校関係、中学校関係の借地料が合計約2千2百万円、年間かかっております。小学校で7百万円、中学校で1千4百万円ほどでございます。実は学校・地域により、かなり偏りがある状況でございます。吉田地域、水沢地域で借地を主に学校敷地としている学校が多い状況になっております。これは建設時点の歴史的な経緯もあるわけでございます。

すので、良し悪しというのは、一概には言えない話ではあるのかなと思っておりますが地域性があるというところでございます。

学校によりまして畑を借りているとか、車庫の分を借りているとか小さいところはございますが、主に校地そのものを借地によって成り立っているというのは、だいたいその地域でございます。

関口市長

教育委員会の議論の中では議論していただいたということですね。

色々ご質問等いただいております。議会においても、予算に関する事、私の方から答弁するのか、教育委員会の方から答弁いただくのかですが、そういった場面でさらに議論していきたいと感じています。

吉楽委員

1点だけ教育委員会としての方針と、それを拡大してみていかないといけないのは、この再編にあたって閉校を迎えた小学校、要するに跡地等ですね。閉校した校舎等の有効活用とか、こういったのもまた地域の皆さん含めて心配されるところでもあるものですから、この辺は教育委員会の方針表現としては、ある程度、教育委員会を越えた協議の中で話し合いをしていくという形があるものですから、その辺りをどのように持っていくのがいいのか、その点をお聞きしたいです。

関口市長

第1次の学区適正化期間といいますか、それ以前にも廃校利用というものについては大きなテーマでもありますけども、個人的な感想ですが、他の市町村は大変な問題だが十日町市は割とうまく活用している例もあるねと言われることもなくはないです。企業に売却できた例もありますし、芸術祭のメッカになっているところもあると言われることも正直あります。ただ全部が全部ではないし、地域によっては大事な拠りどころがなくなってしまっただけで、でもそこが新たな賑わいの核になってくれたら、それはそれで喜んでいただいている地域も事実あるわけで、そうしたことができることは本当に今の不安を解消する大きなポイントになるんじゃないかと思っておりますけども、そういう点は非常に大事なことで、これは市長部局とも連携しながら向かっていかなければならない課題だと思います。

浅田委員

編成後の学校の姿をどのようにするかというお話でしたけど、「ふるさと十日町市を愛し、自立して社会で生きる子ども」というのが、この十日町市の目指す子どもの姿ですけれども、自立をして都会に出ることがあっても、この地に戻ってきて十日町市のために働いてほしいなと思っています。

関口市長

まさにその通りで、帰ってきていただければUターンですね。素晴らしいことでしょう。ただ外で活躍されているながら、ふるさとのことは知らないというようなことではなく、常に関心を持っていただきたい。そのことで我々が相当発信しなければ元気な街づくりじゃないと、外に出た方々にそう思っただけいけないのがありますので、それはまさに我々の実力が試されているということなのではないかと思いますが、そういった子どもたちを増やしたいという皆さんの思いを非常にありがたく思います。

お時間が来ましたが最後にいかがですか。

佐藤委員

ふるさとに帰って来る子どもたちのために学校の姿を残していただきまして、私たちは魅力ある街を作っていきたいなと願っています。

市長

それでは、議題（3）「その他」ということで議題以外にもここで話したい内容等ありましたらお願いします。いかがでしょうか。

— なし —

それでは議事については以上で終了いたします。進行を事務局にお返しします。

渡辺総務部長

慎重かつ熱心なご議論、大変ありがとうございました。それでは、閉会のあいさつを蔵品教育長からお願いいたします。

蔵品教育長

本日は、皆さん大変お疲れ様でございました。ありがとうございました。

本日は食育と学校給食、それと主に学区の再編についてをテーマに、ご議論いただいた訳でございます。本当にありがとうございます。

特に学区の再編につきましてはひとえに子どもたちの数の減少が著しい中での始まった議論であります。私の手元に数字がありますので、お話をさせていただきます。

合併時の市の人口が6万3,768人でありました。そして今年の3月31日は、5万2,578人で毎年800人程度減少。この14年間の中で17.5%の減少ということでございます。その中で児童・生徒の数がどうであったかといいますと、合併時は5,365人、そして今年の5月1日現在の学校基本調査の数字では3,594人でありました。全体では1,771人減。率で33.0%

減ということをございまして一般の市民の減少というよりも子どもたちの部分で、より、その影響が大きいといえますか、大きな数字が出ておまして、こういう数字については、もっと早くから市民にお知らせしておけば良かったというのが今の反省でございます。そういうことによって再編問題が唐突感なく、ある程度の意識の中で市民理解が得られることではなかったのかなということでございます。

反対に、その対象者が増えたということで、平成 25 年にふれあいの丘支援学校を開設させていただきました。その時、特別支援学級に在籍する子どもの数が合併時点では 42 人ありましたが、建設を決めた年の 5 月 1 日現在で 126 人、ちょうど 3 倍に増えた。このように急激に増えることについては、県立ということではなくて、市立で特別支援教育をしっかり考えなければならないということで、市長さんから本当に大きな決断をしていただきまして、特別支援学校の建設を決めさせていただきました。併せて発達支援センターという施設も一緒に併設させていただいたということで、それについては県下というよりも全国に誇れる施設、体制ができているということでございます。

建物ばかりではなく、中の機能的な部分でも全国に誇れる取り組みをしているのではないかなと思っておまして、そういう子どもの需要に応じた、色んな施設環境というのは、やはりとても大切であると思っています。その中でこの度は学区の再編の方針ということを決めさせていただいている訳でございます。これについてはこれから、6 月の定例議会後になるかと思いますが、地域に入りまして、しっかりと説明を申し上げたいと思っております。

そういう数字を感覚ではなく、数字の現状また見込みをしっかりお話させていただきまして、こういう課題を市民の皆さんと共有させていただきたいと思っておりますので、よろしく願い致します。本日は皆様ご多用の中、ありがとうございました。今後とも、よろしく願い致します。

渡辺総務部長

それでは以上をもちまして、令和元年度第 1 回総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。